

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10527

研究課題名（和文）認知症高齢者の活動の質（QOA）を高めるプラクティスガイドの開発

研究課題名（英文）Developing a Practice Guide to Improve Quality of Activities (QOA) for Older Adults with Dementia

研究代表者

白井 はる奈（Shirai, Haruna）

佛教大学・保健医療技術学部・准教授

研究者番号：90346479

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：認知症高齢者の活動の質（QOA:Quality of Activities）を高めるためのプラクティスガイドを開発した。活動の質評価法（A-QOA）講習会を受講した作業療法士らによって得られた認知症高齢者の活動場面262例のデータを質的に分析した。QOAを高める要因、低める要因から、どのような関わりや環境がQOAを高めるのかを導き出し、「活動の質を高める20のポイント」として整理した。これらの結果は書籍にまとめ、認知症ケアに携わる作業療法士や介護福祉士などの初学者が臨床力を高める一助となったと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人は誰もが、いつか終わりの時を迎える。認知症は加齢とともに発症率が高まる疾患であり、避けることのできない疾患の一つである。いかに、心身機能や能力を維持するかという視点も大切ではあるが、そこに固執すると、本来の生きる意味、生の豊かさが失われてしまう。認知症のある高齢者の活動の質に焦点を当て、「いま、ここ」での時間を「いい時間」「質の高い時間」として過ごしてもらうことは重要である。「いい時間」を過ごしてもらうために、すなわち、活動の質を高めるためにどんな支援が必要なのかをエビデンスを持って明らかにしたことは、学術的にも社会的にも意義深いことだと考える。

研究成果の概要（英文）：A practice guide was developed to improve the quality of activities (QOA) of older adults with dementia. Data from 262 activity situations with elderly people with dementia, obtained by occupational therapists who attended a training course on the Assessment of Quality of Activities (A-QOA), were qualitatively analyzed to determine factors that increase or decrease QOA, and to determine what kind of involvement and environment enhances QOA. The results were compiled into a book.

These results were summarized in a book. It is believed that those points helped beginners such as occupational therapists and care workers involved in dementia care to improve their clinical skills.

研究分野：作業療法

キーワード：作業療法 認知症 活動の質 ウェルビーイング QOA

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

我が国の認知症高齢者は400万人を超え、85歳以上の高齢者の4割に認知症があるとされる。認知症高齢者は自らのニーズを言語的に表出することが困難で、様々な活動に伴う充実感、つまり活動により本人の活動参加へのニーズが満たされているか、「いい時間」を過ごすことができるか、という判断をすることが難しく、ケアや作業療法が妥当かどうかの判断に困ることが多い。

そのため、我々は活動の質(QOA: Quality of Activities)を判断する評価法を開発し、客観的に活動の質を評価する方法を作ること目標に研究を行ってきた。

活動の質(QOA)を高めるためにはどのような支援が必要なのかを体系化したいという思いから、この研究を行った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、認知症のある高齢者がより良い活動が行えるためのプラクティスガイドを開発することである。

人は誰もが、いつか終わりの時を迎える。認知症は加齢とともに発症率が高まる疾患であり、避けることのできない疾患の一つである。いかに、心身機能や能力を維持するかという視点も大切ではあるが、そこに固執すると、本来の生きる意味、生の豊かさが失われてしまう。

認知症のある高齢者の活動の質に焦点を当て、「いま、ここ」での時間を「いい時間」「質の高い時間」として過ごして頂くことは大変意義深いことであり、大切なことである。

「いい時間」を過ごしてもらうために、すなわち、活動の質を高めるためにどんな支援が必要なのかをエビデンスを持って明らかにすることが本研究の目的である。プラクティスガイドにより、経験の浅い作業療法士や、認知症ケアに携わる介護者にも支援の参考にってもらうことができ、意義があると考えられる。

### 3. 研究の方法

以下の順序で研究を行った。

認知症高齢者6名が、アクティビティを行っている活動中の動画を撮影し、研究者3名でQOA評価法に基づき採点した。

OT20名を対象にQOA評価法の研修会を開催した。の動画を用いて、QOA評価法の採点基準について説明し、受講者に採点方法を理解してもらった。

QOA評価法研修会に参加したOTに、それぞれの勤務施設でクライアント(認知症高齢者)10名の活動中の様子2場面を、QOA評価法を用いて評価してもらった。録画はせず、その場での観察及び記録にとどめた。また良い状態(高得点)悪い状態(低得点)となった原因(環境や関わり方)について自由記述で記載してもらった。

により、20名の作業療法士から出された262場面の自由記述のデータを研究者3名で質的分析を行い、QOAを高める関わりと、QOAを低くする関わりを探索した。

で得られた内容をもとに、介入の時系列で整理し、プラクティスガイド案を作成した。

### 4. 研究成果

A-QOAの点数が高くなった場面(活動の質が高い状態)、低くなった場面(活動の質が低い状

態)に影響したと考えられる要因を、3名の研究者でカテゴリーに分けたところ、3つの大項目と、37の小項目に整理できた。

3つの大項目は、A「活動の選択」、B「活動の実施」、C「環境調整」であり、Aの小項目は「本人の心身機能に活動を適応させる」、「本人が興味のある活動を選択する」など、Bの小項目は「使いやすい道具を準備する」、「失敗しないよう手がかりを与える」、「手続き記憶を引き出す」など、Cの小項目は「ネガティブな感情にすぐに介入する」、「集中しやすい環境設定」などが挙げられた。これらの結果は、論文としては、『認知症のある人の活動の質を高める要因の検討』、佛教大学保健医療技術学部論集 第15号(2021年3月)3-14, 2021として発表した。また、第18回世界作業療法士連盟大会(2022年8月にフランス&オンラインでのハイブリッド開催)にて発表した。

研究から得られた内容は、臨床経験豊富な4人の研究者で37項目を20項目に整理した。20の項目は以下の表のとおりである。

活動を選択するための4つのポイント	
1：活動を選択するための4つのポイント	
1-1	興味・関心のある活動を選択する
1-2	心が動く活動を選択する
1-3	身体・認知機能に合った活動を選択する
1-4	能力に合わせて調整できる活動を選択する
選択した活動の質を高める13のポイント	
2：活動時の環境調整の4つのポイント	
2-1	快適な環境にする
2-2	集中できる環境にする
2-3	活動しやすい姿勢になるように設定する
2-4	メンバー構成を考える
3：活動を始める時の5つのポイント	
3-1	無理強いをしない
3-2	機能や関心に合わせた活動の準備を行う
3-3	活動の見通しを伝える
3-4	主体的に活動内容や方法を選択できるようにする
3-5	活動を行う手がかりを提供する
4：活動中の4つのポイント	
4-1	心が動く交流が促進されるように関わる
4-2	失敗しないような手がかりを提供する
4-3	認められるような機会をつくる
4-4	一人ひとりに目を配り、適時、個別に関わる
活動後の3つのポイント	
5：活動後の3つのポイント	
5-1	称賛される機会をつくる
5-2	発見したことを他のスタッフや家族に伝える
5-3	生活の中にQOA（活動の質）の高い活動（方法）を組み込む

臨床で勤務する作業療法士や介護福祉士、また家族介護者にも研究結果を活かしてもらえるように、以下の書籍にまとめた。

『A-Q0A(活動の質評価法)ビギナーズガイド 認知症のある人の生活を豊かにする 21 の観察視点と 20 の支援ポイント』小川真寛・白井はる奈・坂本千晶・西田征治 / 編著, クリエイツかもがわ, 2022 .

ISBN 978-4-86342-332-9 C0036

書籍では自らの支援を振り返ることができるように、チェックリストを設け、ひとつひとつ整理し、振り返ることができるように工夫した。クライアントのことを理解するための、情報を収集し整理するためのシートも作成し、掲載した。

また、支援の効果を数値化し、視覚的に可視化できるように、A-Q0A のデータを比較できるソフト (AqoaPro) を開発した。データを可視化することで、支援者が支援の質を振り返り、支援に自信を持つきっかけにもなると考えられる。

今後は、対象を、認知症のある人だけに限らず、言語的表出が困難な場面緘黙児などの児童や、多様な背景を持つ乳幼児にも広げて、多くの人々が「いい時間」を持てるような支援に繋がるように、A-Q0A をブラッシュアップするとともに、子どもの Q0A が高まるようなプラクティスガイドを開発したいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 白井はる奈	4. 巻 No.273
2. 論文標題 認知症のある人のウェルビーイングを高める実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Monthly Book MEDICAL REHABILITATION	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 白井はる奈, 小川真寛, 西田征治	4. 巻 15
2. 論文標題 認知症のある人の活動の質を高める要因の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学保健医療技術学部論集	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ogawa M, Shirai H, Nishida S, Tanimukai H	4. 巻 75(1) in press.
2. 論文標題 The Assessment of Quality of Activities for clients with dementia analyzed by the Rasch model.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Am J Occup Ther	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 小川真寛, 白井はる奈, 西田征治	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 活動の質評価法（A-QQA）開発の取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 88 -91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井はる奈	4. 巻 2023年春号
2. 論文標題 認知症のある人の生活とウェルビーイング	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床作業療法NOVA	6. 最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井はる奈	4. 巻 18巻4号
2. 論文標題 認知症の人のウェルビーイングを高めるために必要な観察力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床作業療法NOVA	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 白井はる奈, 小川真寛, 西田征治, 坂本千晶
2. 発表標題 認知症のある人の活動の質 (Quality of Activities: QOA) を高めるプラクティスガイドの開発
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Haruna Shirai, Masahiro Ogawa, Seiji Nishida, Chiaki Sakamoto, Tomohiko Yoneyama
2. 発表標題 Exploring the practice guidelines that promote quality of activities in persons with dementia: A qualitative study
3. 学会等名 WFOT International Congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井はる奈, 小川真寛, 西田征治
2. 発表標題 事例を通した活動の質評価法 (A-QQA) の検討
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真寛, 白井はる奈, 西田征治
2. 発表標題 認知症をもつ方の活動の質を評価するツールの開発 活動の質評価法 (A-QQA) の紹介
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真寛, 白井はる奈, 西田征治
2. 発表標題 活動の質評価法 (A-QQA) の開発とその研修会の有用性の検討
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真寛, 西田征治, 白井はる奈
2. 発表標題 活動の質評価法 (A-QQA) の開発 ラッシュモデルを用いた構成概念妥当性の検討と評価得点の定量化の試み
3. 学会等名 第6回日本臨床作業療法学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井はる奈, 小川真寛, 西田征治, 坂本千晶
2. 発表標題 認知症のある人の「活動の質」と観察者が感じる「本人にとっての意義」との相関 -A-QOA (活動の質評価法) を用いた比較から-
3. 学会等名 第24回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Haruna Shirai, Yusuke Kusano, Soichi Shirai, Masahiro Ogawa, Chiaki Sakamoto, Seiji Nishida
2. 発表標題 Can A-QOA measure children's occupational engagement ?
3. 学会等名 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 小川真寛, 白井はる奈, 坂本千晶, 西田征治	4. 発行年 2022年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 140
3. 書名 認知症のある人の生活を豊かにする21の観察視点と20の支援ポイント	

1. 著者名 西田征治, 小川真寛, 白井はる奈, 内山由美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 136
3. 書名 作業療法士がすすめる認知症ケアガイド 行動心理症状の理解と対応&活動の用い方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小川 真寛  (Ogawa Masahiro)  (00732182)	神戸学院大学・総合リハビリテーション学部・准教授    (34509)	
研究 分 担 者	西田 征治  (Nishida Seiji)  (90382382)	県立広島大学・保健福祉学部(三原キャンパス)・教授    (25406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関